

プールの水を飲み水に

川崎・新城小で浄水装置実演

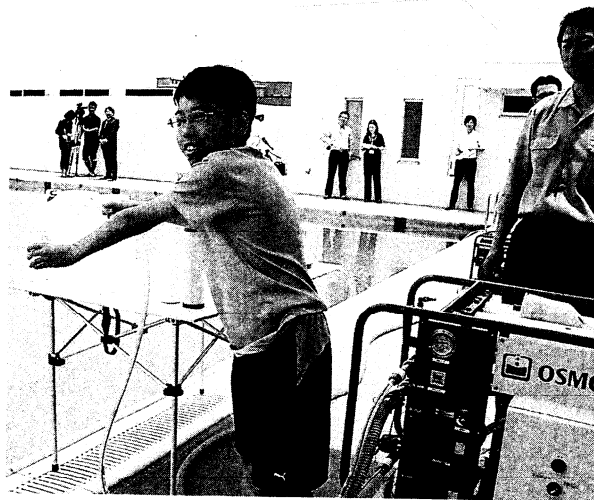
川崎市中原区の市立新城小学校（川崎等校長）で4日、緑色に濁ったプールの水を飲み水に変える非常用飲料水浄化装置の実演が行われた。

装置は同市の水処理システム製造業「オスモ」（野口武志社長）が2010年に開発。市内企業の技術力の高さを子どもたちに知ってもらおうと市が開催

した。装置内の活性炭フィルターなどを通してゴミや臭いを取り除き、最後に細菌や重金属を除去する「ROモジュール」という特殊フィルターを通して浄化する。1日4800リットル（600人分）の水を処理でき、防災対策とし

て病院やマンションなどでの導入実績があるという。東日本大震災では宮城県東松山市や気仙沼市の避難所に出向き、プールの水を浄化して避難者に飲み水を提供した。大型の類似装置は他にも開発されているが、この装置は重さ

92キロ（幅90センチ、奥行き55センチ、高さ80センチ）と小形で、大人2人で持ち運べるという。



この日は6年生121人が参加。濁った水が装置を通り透明な飲み水に変化すると、児童からは「すごい」「飲みたい」と歓声が上がった。相沢ことねさん（11）は「あんなに汚い水がこんなきれいになるなんてびっくり。市内にこんな装置を作る会社があるのはすごい」と驚いていた。

【斎川瞳】

緑色に濁ったプールの水がきれいな飲み水に変化し、驚く児童ら